

くたみのもりエクスプレス

vol.43

特集：地域医療における訪問診療
その症状「かくれ脱水」かも？
竹田市に移住して
災害にそなえて
老健だより
地域を支える医師になるために
外来担当医表



大久保病院 屋上から撮影（8月）

写真提供 情報管理課 工藤 優恭



地域医療における訪問診療



総合診療科

もみい しんじ

梶井 眞二

訪問診療とは

大久保病院は在宅療養支援病院の施設基準を満たしており、患者さんができる限り自宅で過ごせるような体制を整備するとともに、自宅で医療を受ける事ができる在宅医療にも取り組みを行っています。

在宅医療とは、病院や診療所などの医療機関から患者さんの自宅や介護施設など医師や看護師、薬剤師などの医療職が向いて行われる医療行為のことで、具体的には往診と訪問診療に分けられます。往診は救急車を呼ぶほどでは

ない急な体調不良などの時に患者さんやご家族からの要請に応じて医師と看護師等が臨時で出て向いて臨時に診療を行うもので、依頼された医師が応じる限りは誰でも往診を受ける事ができます。

それに対して訪問診療は通院が困難な病状の患者さんに対して行われ、事前に主治医等と具体的な在宅療養計画を立てて定期的（通常は月に1回か2回）に患者さん宅に向いて診療を行います。従いまして、対象となるのは、慢性疾患、悪性腫瘍、高齢者医療等で病状悪化防止を目的とする場合が多くなります。

地域医療における訪問診療のニーズ

大久保病院の場合、患者さんの送迎を積極的に行って交通弱者の高齢者のお役に立つよう配

慮をして参りましたので、訪問診療のニーズは必ずしも高くなかったと言えるでしょう。しかし、身体が不自由だという理由のみならず、中山間地である竹田市では急斜面に家があるなど、患者さんが家から送迎車まで移動することが困難な場合もあるでしょう。また、送迎を利用して病院受診ができて、同じ送迎車両の患者さんたち全員が診療が終わってから帰る事になりますので、必然的に待ち時間及び送迎時間が長くなり、体力的に待つことができない方もいらっしゃるでしょう。そのような場合、お気軽に病院にご相談いただけますと医師と看護師が患者さんのお宅にお伺いする訪問診療がお役に立てる場合がありますものと思えます。もちろん、レントゲン検査はできませんが採血して病院に持ち帰ることで血液検査を行うことも可能です。

地域医療における訪問診療

さて、厚生労働省の「平成29年度の人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書」によると、できれば自宅で最期を迎えたいと思われている国民が約7割にのぼることがわかっており、ご家族の事情にもよりますが、ご本人の希望を叶えるお手伝いをするのも訪問診療の大きな役割です。もちろん何かあるとすぐに処置を受け

ることができるとは違って、家で最期の時間を過ごすことは、本人にも家族等にとっても不安を感じるでしょうが、看護師がお伺いする訪問看護を受けることによつて病状変化に早く気づく事ができたり、電話相談にも答えることができて医師に往診依頼をすることもできます。もちろん、自宅でも何としてでも最期を迎えることに

こだわらなければならない。できるだけだけ自宅にいて、本人やご家族が入院した方が良いと思われた時には入院するという「ぎりぎり在宅、ほぼ在宅」でも、長い期間入院するよりもご家族水入らずで過ごせる時間が長くできる事になるでしょう。

大久保病院でも在宅看取りに取り組んでおり、ごく最近も数名の患者さんが自宅で最期を迎えることができました。面会制限のある病院ではなく、住み慣れた自宅で多くの家族や親しい人たちに見守られて旅立つことができる事は、満たされた人生の最期ではないかと思えます。なお、定期的に診療を受けている患者さんが自宅で亡くなられても担当医が訪問する限りは警察が介入する検死になることはありません。

訪問診療に関するご相談はお気軽に地域医療介護連携室にしてください。ご希望のようお願ひ申し上げます。



その症状「かくれ脱水」かも？

近年の夏の暑さは災害級とまで言われ、今年も全国各地で、熱中症が原因で亡くなる人が相次ぎました。秋風が感じられる季節にはなりませんが、まだまだ油断は禁物。熱中症や脳梗塞等、重篤な病気の原因となる「脱水」は一年中起こる危険性があり、自分で気づかない事も多い症状です。だるさや食欲低下等、単なる夏バテと誤っているような症状も、実は水分不足が原因かもしれません。このような状態は脱水の一手前の「かくれ脱水」とも呼ばれ、特に高齢者や持病のある人、肥満、不規則な生活習慣や朝食抜き、アルコール多飲の人等は注意が必要です。そこで、「かくれ脱水」のチェック方法と予防策をご紹介します。



室内

冷房で部屋は涼しいが、乾燥している。また気づかないだけで身体から水分は出ている

かくれ脱水症 チェック項目

- 1 口の中が渴いている。ネバつく。
- 2 手の甲の皮膚をつまむと、3秒以上元に戻らない。皮膚のかさつきがある。
- 3 指の爪を押しした後、3秒以上赤みが戻らない。手が冷たい。
- 4 尿の回数、量が少ない。色が濃い。
- 5 体がだるい、ふらつく。頭がボーッとする。

ひとつでも該当していると脱水症の可能性があります。「かくれ脱水」を防ぐには、何より規則正しい生活習慣が大切です。

こまめな水分補給

安静時でも1日約1・2〜1・5リットル程度の水分補給が必要です（水分制限のある人は主治医に相談を）。8回程度に分けて、こまめに摂りましょう。特に高齢者は時間を決める等、確実に摂取できるようにしましょう。

規則正しい食事と休養

1日に必要な水分の4割は食事から補給しています。バランスの良い食事を3食摂ること、特に朝食は夜間の水分補給の為に重要です。また睡眠不足にならないようエアコンを適切に使用したり、日中適度な活動を行う等快眠を心がけましょう。厳しい残暑も元気に過ごしましょう！

健診部

保健師 小野 美保

竹田市に移住して

竹田市への移住と インタビューシッ

2023年7月より竹田市の施策「竹田市移住促進社会人インタビューシッ」に大久保病院が参加しましたのでお知らせ致します。「竹田市移住促進社会人インタビューシッ」とは、若者や子育て世帯をターゲットに「暮らし」+「仕事」をセットにして支援する新たな移住施策です。実際に移住を検討している看護師、介護福祉士の方々に大久保病院に来て職場体験をしてもらい、移住+大久保病院に就職して頂くのが狙いです。実施期間は、2024年3月までとなります。

医療・介護/しごと型



地域社会と一体となった医療ネットワークの実現へ

社会医療法人社団 大久保病院

「+build」より掲載

移住した職員へ インタビュー

また、今回の取組と併せて竹田市の移住紹介サイト「+build」に竹田市に移住して当院に就職した職員2名が紹介されましたのでお知らせ致します。「+build」とは一般社団法人竹田市移住定住支援センターが運営している移住紹介サイトであり、移住してくる方に竹田の紹介、空き家紹介等をおこなっているサイトになります。

紹介されたのは福岡県より移住した平田 恵璃菜さん（写真右…看護師）と大分県日出町より移住した伊東 千春さん（写真左…介護士）です。仕事のやりがいや好きなところ、竹田に移住して感じたことや体験談について語られています。



「+build」には、その他にも移住の始め方や実際に移住した方のインタビュー記事、竹田市の医療体制や教育体制などの生活環境、求人情報といった様々な情報が掲載されています。左のQRコードの「大久保病院インタビュー」よりアクセスできますのでご覧ください。

総務部人事課

係長 永田 浩一



それぞれの移住のカタチ

+build.

ホームページ
リンク

大久保病院
インタビュー



ホーム
ページ



災害にそなえて



2023年8月21日、竹田市城原地区の自治会長会および社会福祉協議会より要請があり、避難誘導および避難所開設訓練に当法人のDWAAT(災害派遣福祉チーム)が参加しました。

城原地区の住民は約600人で訓練参加者は約120人でした(関係者含む)。避難場所は城原小学校の体育館で、地元消防団が避難誘導。地域全体で行った大規模な避難訓練となりました。



DWAATとは、大規模災害時に、避難所等で高齢者や障がい者等の特に配慮を要する方に対して、福祉・介護のニーズを把握し、応急的な支援等を行う、福祉支援の専門チームです(大分県ホームページより引用)。避難が長期化し二次被害(健康被害)が生じるおそれがある場合に、当該市町村より県へ派遣要請があり、その後社会福祉協議会よりDWAATの派遣が発令されます。

今回の訓練では、大雨警報時の地震を想定し、避難指示レベル4の発令後の避難誘導と避難所開設を実施。その後、県の発令を受けDWAATが出動し、避難者の支援を行いました。到着後、福祉トリアージを実施。これは避難が長期化することを想定し、健康状態や困りごとの聞き取りをしたり、支援や介護が必要な方は福祉避難所へ移送し少しでも良い生活が送れるよう適切な避難場所へ誘導いたします。

その後はエコノミー症候群の予防体操、防災についての説明、非常食の試食、炊き出し、ダンボールベッドの組み立て訓練をおこないました。

避難するときに大切なことは、災害が予想されるときは「安全な時期に、安全な方法で、安全な場所」に避難することです。いつでも避難できるよう防災グッズや非常持ち出し品などの準備をしておきましょう。

救急災害対策室

室長 工藤忠孝

老健だより

夏の事故 運動

7月20日早朝街頭啓発活動
～小倉交差点にて～



七夕の飾りつけ

七夕の飾りつけが、今年も行われました。入所、通所共に、利用者と職員が飾りの作製に精を出し、短冊に願いを込めました。

ヴァル・ド・グラスくじゅう
通所リハビリ

大盛況の

レクレーション

<エアホッケー>



午前中はリハビリや入浴等でそれぞれの時間を過ごし、昼食と休憩で一息ついた後は、午後の時間が始まります。そこでリハビリスタッフによる体操に続いて行われるのが毎日大盛り上がるのレクレーションです。
まずは、通信カラオケでお馴染みのDAMを使い、ごぼう先生の体操でウォーミングアップ。恒例の体操となっております。みなさん上手に体を動かしています。その後は日替わりのゲームや脳トレを行います。ゲームは職員が手作りすることもあり、デイルームからは大歓声が聞こえてきます。

<的当て>



↑玉入れ↓



地域を支える医師になるために



8月17日(木)18日(金)大分県医療政策課より依頼があり地域枠医学生2名の地域医療自習を実施しました。地域枠は学費や生活費を県が補助し、その補助金返還を免除する条件として9年間大分県内の病院で勤務するという制度です。訪問看護や宮砥地区への巡回診療に帯同してもらい竹田の地域性やへき地医療を学びました。

外来担当医表(2023年9月1日より)

※土曜日の午後・日曜日・祝日は休診となります。
都合により担当医が変更になる場合がございます。ご了承ください。

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------------|----|--|-------|-------|------------|---------------------|-------------------------|
| 内科 | 午前 | | | 安永 | 安永 | 安永 | 外来担当医 |
| | 午後 | | | 外来担当医 | 外来担当医 | 外来担当医 | 休診 |
| 循環器内科 | 午前 | 秋好 | 山崎 | | | | |
| | 午後 | 外来担当医 | 外来担当医 | | | | 休診 |
| 消化器内科 | 午前 | | しょう正 | | | | |
| | 午後 | | | 福田 | | | 休診 |
| 呼吸器内科 | 午前 | | 高木 | | | | |
| | 午後 | | 外来担当医 | | | | 休診 |
| 膠原病・腎臓内科 | 午前 | | | | | 大村 | |
| | 午後 | | | | | 大村 | 休診 |
| 神経内科 | 午前 | | | | | 水上 | 熊本(第4) |
| | 午後 | | | | | 水上 | 休診 |
| 外科 | 午前 | 小野(再診) | 小野 | 小野 | 小野 | 小野(再診) | 要予約 |
| | 午後 | 高橋(新患) | 外来担当医 | 手術 | 外来担当医 | 手術 | 休診 |
| 内視鏡室 | 午前 | 小野 | しょう正 | 小野 | 小野 | 小野 | 要予約 |
| | 午後 | 小野 | しょう正 | 手術 | 田中・小副川(隔週) | | 休診 |
| 脳神経外科 | 午前 | | | 阿南 | | | |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| 整形外科 | 午前 | 浅尾・佐藤 | 浅尾・佐藤 | 佐藤・津村 | 浅尾・佐藤 | 浅尾・松田 | 休診 |
| | 午後 | 外来担当医 | 外来担当医 | 手術 | 外来担当医 | 手術 | 休診 |
| 泌尿器科 | 午前 | | | | | 井上 (10:00~16:00) | |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| 乳腺外科 | 午前 | | | | | | 未廣(第1・3) |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| 婦人科 | 午前 | | | | | | 外来担当医(第1・3) 宮川(第2・4) |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| 心臓血管外科 | 午前 | | | | | | 外来担当医(第3) |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| 総合診療科 | 午前 | 初井 | 重光 | 多田 | 筑波 | 初井 | 多田 |
| | 午後 | | | | | | 休診 |
| リハビリテーション科 促通反復療法(川平法) | 午前 | 川平和美 鹿児島大学名誉教授 促通反復療法研究所<川平先端リハラボ>所長 | | | | | |
| | 午後 | 川平医師の診療は、隔月・予約制となっております。日時につきましては当院ホームページのお知らせをご覧ください。 | | | | | |

備考:都合により担当医が変更になる場合がございます。ご了承ください。
()の数字は、月の何週目かを表しています。例)、(第3)は、3週目に当該の医師が診断致します。